

## 安全対策と挑戦の機会のバランスを見直す春 放課後児童クラブの新たな在り方とは

除くこととリスクを取る（挑戦の機会や成長の場）のバランスである。安全管理を重視しすぎると、挑戦の機会が奪われてしまう。一方で、安全が疎かになれば事故のリスクが増大する。こうした運営方針・運営状況を見直す上で、春は絶好の機会と言える。

施設の雰囲気が大きく変化する。特に春休みは、活動の幅が広がり、新たな出会いも増える。また、管理側の視点では、事故件数が増加しやすい期間でもある。

私は数年前、厚生労働省の調査研究事業に携わり、全国の自治体が把握する放課後児童クラブの事故状況を分析し、事故防止のマニュアルづくりに関わった。そこでの調査の結果、年度の変わり目

に事故件数が増加する傾向が判明している。子どもたちが浮き足立つ時期である春休みは特に、大人の見守りが十分でないと思わぬけがを負うリスクがある。そのため、第一に安全対策を進めていきた

い。たとえば老朽化した遊具や整備不足の施設は迅速に改善し、ハザードを取り除くことが大切である。一方で、子どもが

自主的に挑戦し、失敗から学ぶ体験は、心身の成長に不可欠な要素である。スポーツや創作活動はリスクを伴うが、それらを通じて、子どもたちは判断力や自信を育み、仲間との連帯感を深めていく。

正しいのではない。複数の大人が丁寧に見守り、子どもが挑戦と失敗から学んでいく場が放課後児童クラブであ

は、単に子どもを安全に預かる場ではなく、異なる年齢層との交流を通じて社会性や協調性を養う「第三の居場所」としての役割を担っている。守るだけ授

よって事故防止と成長機会の両立を図る取り組みこそ、この春、改めて見つめ直すべき大切な視点ではないだろうか。

社会保育学科准教授 鈴木勲

